

おくすりコラム



脳梗塞治療に使われる薬剤



脳梗塞治療に使われる薬剤には、大きく分けて「急性期の治療」を目的としたものと「再発予防や後遺症対策」を目的としたものの2つがあります。今回は「急性期の治療」に用いる薬を取り上げます。

脳梗塞急性期の治療

- ① 血栓溶解療法：t-PA（アルテプラゼ）は、脳に詰まった血栓を溶かし、脳血流を速やかに再開させます。脳梗塞発症から4時間半以内に使用することとされています。
- ② 脳保護治療：活性酸素（フリーラジカル）の消去剤で、脳保護作用があります。障害された脳細胞や脳血管から放出される活性酸素を抑え、脳梗塞の悪化を防ぎます。
- ③ 抗血小板療法：オザグレルナトリウムは、血液を固まらせる働きを持つ血小板剤の機能を抑制して、血栓生成を予防します。発症から5日以内の投与が効果的とされています。
- ④ 抗凝固療法：発症から48時間以内で、病変の最大径が1.5cmを越すようなアテローム血栓性脳梗塞には、選択的トロンビン阻害剤のアルガトロバンが使用されます。

脳梗塞急性期の治療薬剤

血栓溶解薬：t-PA（アルテプラゼ）等
脳保護剤：エダラボン等
抗血小板剤・抗凝固剤：オキリコン、アルガトロバン等
抗浮腫剤：グリセレブ、マンニトール等

今回は「再発予防や後遺症対策」に用いる内服薬について取り上げます。脳梗塞治療は、早ければ早いほど、お薬の効果が期待できます。いつもと違うと感じたら、すぐに病院受診が大切です。

（薬剤科長：佐藤 ゆかり）

編集後記



異常とも言える暑い夏が過ぎ、すっかり秋を感じる季節となりました。秋といえばスポーツですが、仙台市では11月に「仙台リレーマラソン」が開催されます。今年で第9回を迎え、当院では、職員有志を募って第1回から毎回参加しています。仙台市陸上競技場をメインとした特設コース一周1.4kmを、タスキのリレーによって42.195kmの完走を目指す競技です。

お時間がありましたら、応援をよろしくお願いいたします。
（地域医療連携室：西本 明日香）



仙台東脳神経外科病院

〒983-0821

宮城県仙台市宮城野区岩切1丁目12番1号

Tel：022-255-7117（代表） Fax：022-255-7760

【関連施設】

仙台リハビリテーション病院

〒981-3341

宮城県富谷市成田1丁目3番1号

Tel：022-351-8118（代表） Fax：022-351-8126

医療法人社団 脳健会

仙台東脳外だより

編集：仙台東脳神経外科病院 広報部 / 発行：2019年10月

VOL.3
2019.秋

ご自由にお持ちください

超高齢化社会と神経疾患

当院に勤務し14年目が過ぎようとしています。28年間の大学在籍に次いで長い勤務病院になりました。私自身のところにも、過日後期高齢者の保険証が配布されました。このように、先進国の中でも日本は1970年に高齢化社会に、2007年には超高齢化社会に突入、さらに2025年には75歳以上の後期高齢者が30%、2060年には40%に達すると予測されています。

高齢者の病気といえば、がん、脳血管障害や心臓病などの動脈硬化による循環器疾患、さらに、最近フレイルとかサルコペニア、あるいはロコモティブ症候群などと呼ばれる身体的虚弱化による運動能の低下、あるいは全身臓器の予備能低下が挙げられています。神経系の病気では、加齢と密接に関係した認知症やパーキンソン症候群が増えつつあります。実際、この14年間にも当院外来を受診される患者さんの疾患が少しずつ変わってきているように思われます。パーキンソン病を例にとれば、私が入局した45年ほど前は60歳代-70歳代が主体でしたが、最近では70歳代-80歳代と、確実に10歳ほど高齢に移行しているようです。

重症筋無力症についてはもっと極端で、以前は20歳代-30歳代の若年女性成人主体の病気といった印象を持っていました。この10年間に、「瞼が下がってくる」、「物が二重に見えることがある」といった訴えで受診され、脳幹梗塞あるいは糖尿病性脳神経麻痺の他に筋無力症の可能性をも疑って検査した結果、12人で抗アセチルコリン受容体抗体が陽性でした。その平均年齢は56歳で、うち6名が84歳を筆頭とした70歳以上の方でした。さいわい、最近免疫抑制剤が進歩したおかげで、薬物治療開始後は症状もほぼ消失し、抗体価も減少して、以前のように気管切開や人工呼吸

神 経 内 科
名 誉 院 長

さいとう ひろし
齋藤 博



器を必要とするような重篤な状態になる危険性はほとんどありません。超高齢化社会における神経疾患が変わりつつあることを痛感させられます。

脳梗塞や脳出血などの脳血管障害はどうでしょうか。降圧剤も進歩し、以前のように収縮期血圧が200mmHgを超えるような高血圧は非常に少なくなりました。しかし、最近、塩分摂取量の点で宮城県が全国1位になったとのニュースを聞きました。高血圧と加齢は、現在増えつつある糖尿病とともに、動脈硬化の主要な危険因子の一つです。今後、脳血管障害の予防のためにも食生活のさらなる見直しが必要でしょう。しかし、高齢者の場合、血圧を下げ過ぎるのも危険を伴います。低血圧によって脳梗塞が誘発されることもありますし、立ちくらみの原因になりうることもあれば、脳血流量の減少によって認知機能の低下にも繋がりがねません。薬剤の種類や量に関する注意・さじ加減が大事でしょう。

さて、神経学（欧米での呼称はNeurology）の診療科標榜名が、日本神経学会で「脳神経内科」に統一されました。当院においても準備が整い次第変更予定です。今後も地域の医療・福祉機関と連携しながら、細胞数が大分減少した「脳」に鞭打って、ロコモティブ症候群にあらがいがながら、神経疾患の診断・治療、さらに患者さんやご家族のサポートに微力ながら尽力したいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

院内トピックス

第22回 日本臨床脳神経外科学会へ参加いたしました



当院では、日常業務のスキルアップを目的として、院内学術発表会を催しており、院内の各部署が、それぞれ研究発表を行っております。昨年より優秀な演題は日本臨床脳神経外科学会で発表しており、今年は岡山県で開催されました。他地域の病院の様々な取り組みについて学ぶことで、非常に刺激を受けました。今後もこうした院内外での活動を通して、各部署の専門性を高め、地域の方々や患者様のお役に立てるよう努めてまいります。下記は今回発表した演題と発表者です。（抄録順）



「脳疾患救急外来に対応した脊髄刺激装置植込み患者のMRI運用」	菅谷 大誉（診療放射線技師）
「外来患者の飛び込みMRIにおける撮影時間短縮について」	八重樫 成太（診療放射線技師）
「当院における早期離床の取り組みについて」	玉澤 加奈恵（理学療法士）
「開頭血腫外膜切除術を行った器質化慢性硬膜下血腫の一例」	渡部 憲昭（医師：脳神経外科）
「救急外来におけるタッチングケアを考える」	佐藤 ひろ子（看護師：手術室・外来）

部 署 紹 介

ME 室



高気圧酸素治療装置

臨床工学技士とは、ME（Medical Engineer；メディカルエンジニア）やCE（Clinical Engineer；クリニカルエンジニア）の略称で呼ばれる、医師の指示のもとに生命維持管理装置の操作及び保守点検を行う、医療機器の専門医療職種です。現在スタッフは3名体制で、高気圧酸素治療装置・人工呼吸器・除細動器など、約20種類の機器を運用しています。高気圧酸素治療装置は、カプセル内の高気圧下にて血液中の酸素を増やし、全身に増えた酸素を送り届け、身体中の低酸素状態の改善、むくみなどを軽減させる治療方法です。

脳梗塞、頸椎損傷などの患者様へ、当院では年間約2,000件施行しています。また、難治性慢性疼痛を和らげる効果のある、脊髄刺激療法（SCS）では、入院中に患者様の日常生活における注意点や、装置の操作方法についての説明を行っております。

今後も、医療機器の安全管理と適正使用に向け、臨床工学技士としての専門性を活かしながら、病院と患者様双方へ貢献できるよう努めてまいります。

（副主任 臨床工学技士：大庭 玲子）



脊髄刺激療法（SCS）装置

栄養 ひとくちメモ

脳卒中を予防しよう！
～生活習慣を振り返ろう～

脳卒中の原因となる、主な危険因子と予防について

- ① **高血圧**…血圧が140/90mmHg以上の状態を指します。脳の血管に大きな負担となり、動脈がもろくなったり、詰まったり、破れたりしやすくなります。
塩分を多く摂取することでも、血圧は高くなります。
【血圧を上げないためには】
◎ストレスをためこまない ◎急激な温度変化を避ける ◎便秘を予防する
- ② **糖尿病**…近年の「食生活の欧米化」で患者数は増加しており、摂取エネルギーに留意する必要があります。食事は1日3食バランスよく、間食や油料理を減らし、体重を管理しましょう。
- ③ **脂質異常症**…特に悪玉コレステロールが高い方は、脂質の摂取を控える必要があります。揚げ物などを減らし、根菜・豆・芋・海藻・きのこ類など、コレステロールを下げる働きのある食べ物を意識して摂取しましょう。脂質は1日あたり12g～24g未満までとしましょう。
【脂質含有量の例】 ポテトチップス1袋：21g アーモンドチョコ15粒：24g
フライドチキン1個：60.6g カップ焼きそば1個：22.7g
- ④ **不整脈（心房細動）**…不整脈によって心臓の中にできた血栓が、心臓から脳に飛ぶことで脳の血管を詰まらせ、脳梗塞を引き起こします。
- ⑤ **喫煙**…ニコチンの作用で血圧が上昇したり、動脈硬化が促進される、と言われています。

ほか、**水分の不足・過度の飲酒・肥満・運動不足**なども、危険因子として挙げられます。



当院では、管理栄養士による食事相談を行っております。

食事療法は、病気を治療する上で大切な治療法の一つです。医師の指示に基づいて、管理栄養士が患者様の症状に合わせ、食事をどうしたら良いのか、分かりやすくご説明します。ご希望の患者様は、予約制となっておりますので、主治医または看護師にご相談ください。

（管理栄養士：山上 有梨）

